

2022年12月14日

苫小牧補聴器購入の助成を求める会
共同代表 八木 慎吾 高橋 克衛

加齢性難聴者の補聴器購入に対する市の助成制度の創設を求める要望書

【要請趣旨】

市民の生活と地域経済を守るため、日夜ご奮闘されていることに敬意を表します。

日本では超高齢社会を迎え、苫小牧市においても総人口に占める65歳以上の割合は30パーセントを越えました。高齢者の増加は、同時に、加齢に伴い音が聞こえにくくなる加齢性難聴者の増加を伴います。

加齢性難聴は、他者の話やメディアの情報を受け取ることなどのコミュニケーションを困難にさせます。日常生活を不便にさせ、生活の質を落とすのみならず、社会的孤立を生み、認知症やうつの原因になるとも指摘されています。聴覚は心身ともに健やかに過ごすための支えです。

加齢性難聴を補う手段として補聴器の使用があげられます。補聴器の更なる普及により、高齢になっても生活の質を落とさず、心身ともに健やかな生活が送られ、健康寿命の延伸につなげていくことが大切です。是非、早急な対応をご検討いただきたく、以下、要請いたします。

【要請事項】

- 一 補聴器を必要とする人が、適切な補聴器を購入し、継続して使用できる仕組みづくりと購入費用の助成を苫小牧市として進めること
- 二 上記の内容を国全体でも行うように、国、北海道に要請すること

【要請理由】

補聴器の価格が片耳当たり概ね3万円から20万円と高額である一方、保険適用がないため全額自己負担になります。身体障害者福祉法第4条に規定する高度・重度難聴の場合は、補装具費支給制度により補助を受けられるものの、その対象者はわずかです。また、難聴の状態は一人ひとり異なるため、補聴器の適切かつ効果的な使用には、専門医への受診や、技能者による継続的な調整が必要です。収入を年金のみに頼る高齢者は多く、特に低所得者への配慮が求められることから、一部の自治体では高齢者の補聴器購入に対して補助を行っています。

本来、国による全国統一の公的支援制度の創設が求められますが、目下、生活の困難さや認知症等の精神症状の進行に直面する方への早急な支援には自治体の取り組みが必要です。適切に実施していただくようお願いいたします。